

学院史料室 展示報告 (2015.1～2016.3)

2015年度の展示については、地域連携事業として行ったものが多いため、まず、それについて少し説明しておきたい。

2013年7月1日、泉大津市と桃山学院大学が「相互に多様な分野で包括的に連携・協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与すること」を目的として、連携協定書の調印式を行った。これに伴い、学院史料室でも2014年度より連携事業の一端を担うことになった。2014年12月12日より泉大津市の織編館で開催された「桃山学院の歴史と文化（第1回）」を皮切りに、泉大津市とは連携事業による展示を継続して実施している。2015年度は3度の展示を行った。

また、和泉市とも2015年度に連携事業としての展示を実施した。和泉市とは、桃山学院大学が和泉市へ全面移転した1995年以降、それぞれの分野で個別に協力を進めてきたが、2007年8月6日に改めて包括連携に関する基本協定書を交わした。これに伴い、2015年4月1日から5月17日まで、和泉市いずみの国歴史館にて「和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015」と題して、連携事業による展示が実施された。学院史料室としては、和泉市と連携事業の展示を行うのは、今回が初めてである。ただし、学院史料室の前身である年史委員会としては、2003年に「地域新聞をよむ・まなぶ―戦前泉州の新聞・絵葉書・鉄道案内―」と題する展示を和泉市と協力して開催している。今回の展示は、それ以来ということになる。

泉大津市と和泉市とのこれらの連携事業による展示を通して、周辺地域の方々に桃山学院のことを知っていただく機会を何度も設けることができたことは、本学にとっては非常に益するところが大きかったと言えるだろう。また、連携事業による展示は、学院史料室にとっても非常に良い刺激となっている。これまでの学院史料室の展示は一部を除き、基本的には学内向けのものとして実施されてきた。それは、ともすれば緊張感に欠け、おぼろげな展示になりがちであった。しかし、連携事業による展示が良い緊張感を生み、

展示の質の向上にも繋がっている。

連携事業による展示の開催には、泉大津市と和泉市の関係者の方々に多大なご協力をいただいている。泉大津市では、泉大津市教育委員会と織編館の職員の方々にお世話になっている。特に、教育委員会事務局生涯学習課の村田文幸氏と奥野美和氏には、展示の準備のたびに本学まで足を運んでいただくなど、非常にご負担をお掛けしている。連携事業は、お二人の働きに負うところが非常に大きい。和泉市については、和泉市教育委員会と和泉市いずみの国歴史館の職員の方々にお世話になっている。特に、教育委員会生涯学習部文化財振興課の森下徹氏には、連携事業に関わらず、たびたびご協力、ご教示いただいている。

泉大津市と和泉市の関係者の方々には、改めて感謝申し上げたい。また、願わくは、連携事業の継続的な実施に向けて、今後もご協力を賜りたい次第である。

■展示・連携事業の詳細については、下記のほか、村田文幸氏（泉大津市）と森下徹氏（和泉市）にご執筆いただいた連携事業報告を別途掲載しているので、そちらも併せてご覧いただきたい。

1 題 目 企画展 桃山学院の歴史と文化（第2回）

日 程 2015年2月20日（金）～2月27日（金）

場 所 泉大津市役所ロビー

行 事 平成26年度泉大津市・桃山学院大学連携事業

備 考

この展示は、2014年12月12日から12月23日まで泉大津市の織編館で実施された企画展「桃山学院の歴史と文化（第1回）」を、泉大津市役所ロビーに場所を移して、第2回目として開催したものである。展示資料については、場所の都合によりパネルだけになった。そのため、資料数としては第1回と比べると大幅に減ることになったが、市役所を訪れた市民の方々に楽しんでいただけるように、竹鶴政孝・リタに関する資料については追加した。資料目録は、第1回目の展示資料と重複するため、ここでは省略する。

※第2回展示の資料目録は本誌第34号に掲載されている。

2 題 目 和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015

日 程 2015年4月1日（水）～5月17日（日）

場 所 和泉市いずみの国歴史館

行 事 和泉市いずみの国歴史館 平成27年度春季特別展

備 考

和泉市教育委員会と桃山学院大学との連携事業として実施された。展示の準備は、和泉市いずみの国歴史館（和泉市教育委員会）、学院史料室、そして本学教授の原山煌氏（国際教養学部）が担った。この展示の会期中には、記念講演が3回、学院史料室所蔵の古いオルガンを使ったコンサートが7回実施された。それらの概要は下記の通りである。

※展示の詳細は森下徹氏の連携事業報告を参照（160頁～）

〔講演〕

①日 程 4月12日（日）

演 目 「桃山学院のあゆみと『マッサン』」

講 師 西口 忠（桃山学院史料室 特別研究員）

※講演記録の掲載あり（3頁～）

②日 程 4月26日（日）

演 目 「百年前の大阪刷モノ語り」

講 師 原山 煌（桃山学院大学教授）

③日 程 5月9日（土）

演 目 「和泉中央丘陵発掘物語 —1500年前のわがまち—」

講 師 白石耕治（和泉市教育委員会）

〔オルガンコンサート〕 ※口絵にコンサートの写真あり

演 者 細江和代（日本聖公会大阪教区大阪聖ヨハネ教会）

開催日 4月2日（木）、4月4日（土）、4月12日（日）、
4月18日（土）、4月26日（日）、5月2日（土）、
5月9日（土）



3 題 目 パネル展

登美丘キャンパスから和泉キャンパスまでに至る変遷

開催日 2015年5月31日(日)

場 所 桃山学院大学聖バルナバ館2階カフェテリア

行 事 和泉キャンパス 20th Anniversary ホームcomingデー

備 考

春の地域交流イベントである桃山フェスタの一環として開催された。大学の交友室所管のイベントであったので、交友室と協力して準備を行った。展示パネルの一部は、和泉市いずみの国歴史館からお借りした。

[展示資料目録]

- ・ 学院のあゆみ
- ・ 登美丘学舎(現堺市東区西野) ※2点 航空写真とアンデレ橋
- ・ チャペル竣工 1991年(学校案内ポスター)
- ・ 登美丘キャンパス 春の風景 —桜と地獄坂(通称)—
- ・ 第32回桃山祭の風景 1992年

- ・ 開発前の中央丘陵 1970年代後半
 ※弥生町上空から現在の和泉中央方面の風景
- ・ 和泉中央丘陵新住宅市街地開発事業
 (トリヴェール和泉) 起工式 1986年 ※2点あり
- ・ 1995年の和泉中央駅周辺
- ・ 公園通りから見た教室棟、聖アンデレ館、(建物予想図)
- ・ 和泉キャンパス起工式 1993年 ※2点
- ・ 移転前のキャンパス用地 1993年3月
- ・ 工事が始まる 1993年4月
- ・ 1993年12月の和泉キャンパス
- ・ 建設中の聖アンデレ館
- ・ 建設中の聖ペテロ館
- ・ 建設中の体育館とカンタベリー館
- ・ 建設中の3号館
- ・ 111年目の新たな出発 1994年
- ・ 谷村新司コンサート
- ・ 移転時の和泉キャンパス 1995年3月
- ・ 移転まであと1日 1995年3月31日
- ・ 聖マーガレット館
- ・ 聖トマス館
- ・ 聖ヨハネ館 (50周年記念館)
- ・ 2009年頃の和泉キャンパス ※航空写真
- ・ 1992年頃の登美丘キャンパス

以上

4 題 目 第二次世界大戦終結70年・日露戦争終結110年記念企画展

「戦争が残したもの もたらししたもの」

①日 程 2015年6月24日～11月17日

場 所 学院史料展示コーナー

②日 程 2015年7月16日～8月3日

場 所 織編館ギャラリー (テクスピア大阪)



行 事 平成27年度泉大津市・桃山学院大学連携事業
備 考

泉大津市との連携事業による展示である。泉大津市と桃山学院大学のそれぞれでテーマを分けて展示を実施した。大学では日露戦争、泉大津市では満州事変の勃発から第二次世界大戦の終結及び戦後の状況までをテーマにした。

※展示の詳細は村田文幸氏の連携事業報告を参照（167頁～）

5 題 目 「地域と大学を結ぶ～泉大津市と桃山学院大学～」

期 間 2015年11月13日（金）～11月15日（日）

場 所 桃山学院大学 1号館 1-313

行 事 第55回桃山祭

備 考

桃山祭（大学祭）の開催期間に、泉大津市が中心となり、連携事業を紹介するブースを設置した。和泉市にもご協力いただいた。内容は、パネル展と泉大津市の物品販売。桃山祭のオープニングイベントでは、泉大津市、和泉市のそれぞれの市のマスコットキャラクターにも登場して



いただいた。また、ブースの方にも泉大津市のマスコットキャラクターに登場していただき、来室者の誘致にも一役買っていたいただいた。来室者は3日間で約500名弱であった。

6 行 事 2015年度ホームカミングデーウェルカムパーティー

期 間 2015年11月15日（日）

場 所 桃山学院大学 総合体育館メインアリーナ

備 考

桃山祭（大学祭）の最終日に開催されたホームカミングデーの会場で、イーゼルを使った簡単なパネル展を実施した。



7 題 目 企画展「真田伝説」

①日 程 2015年12月17日（木）～2016年1月11日（月）

場 所 織編館ギャラリー（テクスピア大阪）

②日 程 2016年1月15日（金）～2月23日（火）

（延長）～3月12日（土）

場 所 学院史料展示コーナー

行 事 平成27年度泉大津市・桃山学院大学連携事業

備 考

2016年のNHK大河ドラマの主人公が真田幸村（信繁）であることに因み、泉大津を代表する綿織物で、幸村が考案したといわれる「真田紐」と、その製法を泉大津に伝えたといわれる後藤又兵衛を取り上げた。真田紐産業の泉大津における発展と、真田家にかかわる人々や後藤又兵衛を描いた「講談本」を紹介。織編館で再現された真田軍旗等も展示された。この展示については、泉大津市が全面的に準備を行った。

※展示の詳細は村田文幸氏の連携事業報告を参照（163頁～）